

令和6年度 次世代ユネスコ国内委員会 第1回会合

令和5年度の実績結果について

次世代ユネスコ国内委員会
2024年5月18日



昨年度の活動、特にユースフォーラムの開催結果について御報告

1. 提言の振り返りと本日の御報告内容
2. ユース関連情報の集約・発信について
3. ユースフォーラムについて

Appendix

1. ユースフォーラム開催を終えての次世代ユネスコ国内委員会委員の感想

提言の振り返りと本日の御報告内容

昨年度注力した、【4. 「ユネスコ未来共創プラットフォーム」へのユースの参画】の中でも、特に「次世代ユネスコユースフォーラム」の実施について御報告

はじめに

次世代の考えるユネスコ活動の強み

提言

1. 対話型ワークショップの実践

(1) 主に大学生を対象とした対話型ワークショップの実施

2. ユネスコエコパーク及びユネスコ世界ジオパークへのユースの積極的な参画

(1) 各登録地域でのユースアンバサダーの任命

(2) 登録地域におけるユースの学術研究フィールドワークの推進

3. 「ユネスコ創造都市ネットワーク」事業へのユースの積極的な参画

(1) 創造都市事業と他のユネスコ事業（特にユネスコスクール）との連携促進

(2) ユース世代を対象とした「ユネスコ創造都市ユースサミット（仮称）」の開催

4. 「ユネスコ未来共創プラットフォーム」へのユースの参画

(1) ユースによるユネスコ関連組織と、ユースからのコンタクトを歓迎する団体リストの作成と周知

(2) 「ユネスコ未来共創プラットフォーム」上にユース専用ページ「ユースページ（仮称）」を設置

(3) 「次世代ユネスコユースフォーラム」の実施

終わりに

ユネスコ活動の活性化に向けて
(提言)

令和4年3月
次世代ユネスコ国内委員会

本日の御報告

2 ユース関連情報の
集約・発信

3 ユースフォーラム

ユース関連情報の集約・発信

昨年度は主にポータルサイト上の「Youth note」における記事作成・公開に注力 ユース関連のユネスコ活動に係る情報の整理・集約の方法については今年度も継続議論

（１）ユースによるユネスコ関連組織と、ユースからのコンタクトを歓迎する団体リストの作成と周知

- ・ 未来共創プラットフォームのポータルサイト上における関連情報の掲載は準備中
- ・ ユネスコ活動に関連のあるユースの情報の整理・集約の方法については継続議論

（２）「ユネスコ未来共創プラットフォーム」上にユース専用ページ「ユースページ（仮称）」を設置

- ・ ユースページ（仮称）の新設は検討中
- ・ 今年度も、ポータルサイト上の「Youth note」において次世代ユネスコ国内委員会の活動報告に重点を置く

記事一覧

No.	タイトル	公開状況
1	日本ジオパーク全国大会で発見した、ユースの活躍と地域の魅力	公開済み
2	石のまち糸魚川～ユース世代が守るジオパークの魅力～	公開済み
3	ユース同士のつながりづくりー関東ブロック・ユネスコ青年活動研究会に参加してー	公開済み
4	次世代ユネスコ国内委員会 活動レポート（2023年10月）	公開済み
5	パリ、UNESCOユースフォーラムで感じた世界のユースコミュニティの力	公開済み
6	旭川まちなかキャンパス	公開済み
7	R5年度次世代ユネスコ国内委員会メンバー紹介	公開済み
8	日本ジオパーク全国大会参加レポート	公開済み
9	12月開催ESD-Netグローバル会合	公開済み
10	ユースフォーラムの開催報告	公開済み
11	ユースフォーラム各分科会の登壇者による感想	公開済み
12	次世代ユネスコ国内委員会 活動レポート（2024年2月）	公開済み



ユースフォーラムの概要

1月19日～21日に開催されたUNESCO WEEK 2024の最終日に実施



OUTLINE

開催概要

1/15(月) - 18(木)	日本語	ユネスコ活動に関わる情報発信	会場	国立オリンピック記念青少年総合センター 〒153-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
1/19(金) 18:00 ~ 19:30	日本語 英語	国際シンポジウム「共に創造する持続可能な未来」	Web 参加	参加登録された方へ 当日Zoomリンクを お送りします
1/20(土) 09:30 ~ 17:00	日本語	第15回ユネスコスクール全国大会「未来のユネスコスクールを考えるーASPnet70周年を迎えてー」	無料	
1/21(日) 10:30 ~ 16:00	日本語	ユースフォーラム「ユースによる『未来への宣言』ーユネスコ活動から考える気候変動ー」	会場 Web 参加	各プログラムの定員に達し次第 締め切りとなります イベントごとに異なります。 各イベントの開催要項をご覧ください。

ユネスコウィーク2024

ユースフォーラムユースによる『未来への宣言』～ユネスコ活動から考える気候変動～

概要

日時： 2024年1月21日(日) 10:30～16:00
場所： 対面（国立オリンピック記念青少年総合センター）／オンライン
参加者： 実数155名（会場48名／オンライン107名）
（登録数225名（会場73名／オンライン152名））

目的

- 気候変動にユネスコ活動を通じて取り組んでいるユース世代の分野横断的な出会いの場にするとともに、多様なユース世代の気候変動に対する関心の向上を促進する。
- あわせて、気候変動問題の解決に向けたユネスコ活動の貢献・役割をユース視点で議論し、気候変動に取り組むための「未来への宣言」の策定に向けたアイデアを抽出する。

背景

- 第42回ユネスコ総会期間中に開催された「ユネスコ・ユースフォーラム」では、気候変動を主なテーマに「気候変動の社会的影響及び気候変動の公正な移行の必要性（特にユースに係るもの）」に関する議論が行われ、各国のユース代表の議論を元に提言が作成された。こうした背景を踏まえ、「ユネスコウィーク2024」期間中に開催する「ユースフォーラム」においても、気候変動に焦点を当て、ユネスコ活動を通じた気候変動問題への対応及びユース世代が果たすべき役割について再考していく。

対象者

世代を問わず、すべての方を歓迎。特に以下のユースの方を対象。

- ユネスコ活動に関心のあるユース
- 気候変動に関心のあるユース

ユースフォーラムのタイムスケジュール

ユースフォーラムでは、全体会・分科会含めて計7つのプログラムを実施 各プログラムで登壇者を招き、次世代委員及び参加者間の交流が生まれるよう設計

時間	プログラム名	内容・登壇者
10:30-10:45	オープニング	開会挨拶 ：渡辺 正実（文部科学省国際統括官／日本ユネスコ国内委員会事務総長） 趣旨説明 ：小林 真緒子（次世代ユネスコ国内委員会委員長）
1 10:45-11:20	ユネスコ本部におけるユースフォーラムに関する報告	「ユネスコ・ユースフォーラム@パリの報告」 茶山 健太（次世代ユネスコ国内委員会委員）
2 11:20-12:00	パネルディスカッション	「ユース世代の気候変動問題解決への貢献について-ユネスコとの関わりをテーマに-」 モデレーター：末吉 里花（日本ユネスコ国内委員会広報大使） パネリスト：林川 真紀（ユネスコ・ジャカルタ事務所長）、茶山 健太（次世代ユネスコ国内委員会委員）
12:00-13:00	休憩	
3	教育分科会	「気候変動問題への対応と持続可能な開発のための教育（ESD）の活性化」 モデレーター：東 和佳奈（次世代ユネスコ国内委員会委員） パネリスト：森 朋子（東京都市大学環境学部准教授）、小林 誠道（Climate Youth Japan）、鬼沢 真之（自由の森学園中学校・高等学校理事長）、自由の森学園中学校・高等学校生徒
4 13:00-14:25	科学分科会	「科学コミュニケーション：気候変動対策への活用方法」 モデレーター：沖田 広希（次世代ユネスコ国内委員会副委員長） パネリスト：藤田 あき美（信州大学工学部准教授）、ドルトン東京学園高校生徒、茶山 健太（次世代ユネスコ国内委員会委員）
5	文化分科会	「地球に優しい生き方を考える場としての『創造都市』の価値」 モデレーター：長澤パーティ明寿（次世代ユネスコ国内委員会委員） パネリスト：佐藤 陽平（一般社団法人ひとねるアカデミー代表理事）、末吉 里花（一般社団法人エシカル協会代表理事／日本ユネスコ国内委員会広報大使）、大分県立臼杵高等学校生徒
14:25-14:45	休憩	
6 14:45-15:15	基調講演	「『未来への宣言』策定に向けた応援メッセージ」 高島 峻輔（芦屋市長）
7 15:15-15:55	ワークショップ・グループディスカッション	「『未来への宣言』策定に向けたワークショップ・グループディスカッション」 進行：佐藤 世壺・笠井 春菜（次世代ユネスコ国内委員会委員）
15:55-16:00	クロージング	閉会挨拶 ：沖田 広希（次世代ユネスコ国内委員会副委員長）

ユースフォーラムの開催結果 > ① ②

茶山委員よりユネスコ・ユースフォーラム@パリの報告を行い、その報告内容に基づき林川氏、末吉氏と気候変動に関するユネスコ活動やユースによる活動の課題について議論

	① ユネスコ本部におけるユースフォーラムに関する報告	② パネルディスカッション
テーマ	ユネスコ・ユースフォーラム@パリの報告	ユース世代の気候変動問題解決への貢献について-ユネスコとの関わりをテーマに-
登壇者	茶山 健太（次世代ユネスコ国内委員会委員）	モデレーター：末吉 里花（日本ユネスコ国内委員会広報大使） パネリスト：林川 真紀（ユネスコ・ジャカルタ事務所長）、茶山 健太（次世代ユネスコ国内委員会委員）
報告/議論概要	- ユネスコ総会に合わせて開催された気候変動をテーマにしたユースフォーラム@パリの当日までの各国ユースとの準備や議論内容、議論の進め方 - ユースフォーラム当日における各国のユース世代と関係大臣との議論内容 - ユースフォーラムのサブイベントや雰囲気、他国のユースとの交流など	- ユースフォーラム@パリに関する報告を受けての感想【林川氏】 - 気候変動に関するユネスコ活動の紹介【林川氏】 - ユースによる活動の課題（大人世代との対話、活動資金の調達に関する課題等）【茶山氏】 - 国際舞台における各国のプレゼンス【茶山氏】
参加者の感想	- パリでの報告など他の国・地域のお話を聞けてとても良かった - ユネスコ本部のユースフォーラムの話がとても興味深く、ユースの頑張っている姿に元気づけられた	- 若い人達が抱えている課題が具体的に理解できた - ユースの思いがよく伝わってきて、本音の話が聞けた - ベテランは若者が活動する際の応援団になる責任があると思った
写真		

ユースフォーラムの開催結果 > 3 4 5

分科会は教育、科学、文化で開催し、それぞれパネリストの一人からプレゼンいただいた後、次世代委員や他登壇者を交えてパネルディスカッションを実施

	3 教育分科会	4 科学分科会	5 文化分科会
テーマ	気候変動問題への対応と持続可能な開発のための教育（ESD）の活性化	科学コミュニケーション：気候変動対策への活用方法	地球に優しい生き方を考える場としての『創造都市』の価値
登壇者	モデレーター：東 和佳奈（次世代委員） パネリスト：森 朋子（東京都市大学環境学部准教授）、小林 誠道（Climate Youth Japan）、鬼沢 真之（自由の森学園中学校・高等学校理事長）、自由の森学園中学校・高等学校生徒	モデレーター：沖田 広希（次世代委員） パネリスト：藤田 あき美（信州大学工学部准教授）、ドルトン東京学園高等学校生徒、茶山 健太（次世代ユネスコ国内委員会委員）	モデレーター：長澤パティ明寿（次世代委員） パネリスト：佐藤 陽平（一般社団法人ひとねるアカデミー代表理事）、末吉 里花（一般社団法人エシカル協会代表理事／日本ユネスコ国内委員会広報大使）、大分県立臼杵高等学校生徒
議論概要	- 話題提供：「若者のシビックアクションについて、どういった経緯で活動に至るのか」【森准教授】 - パネルディスカッション：①学生の気候変動への取り組み、②ユースが気候関連の活動を継続していく中での課題、コミュニティづくりの方法、③気候変動をユースのなかで身近な問題として受け取ってもらうための方法、④学校や教員と気候変動教育とのかかわり、⑤ユース・それ以外といった世代分けを超えた協働の可能性	- 話題提供：「自分の意見や考えを発信、コミュニケーションすることの重要性」【藤田准教授】 - パネルディスカッション：①どのような活動をしているか、②活動をしている中での課題・成功体験、③ユース世代・大人世代をつなげるための工夫 - Mentimeter*を用いた参加者の意識調査（①気候変動に関する情報の入手先・頻度・学校現場の対応/②未来に向けて我々ができること・すべきこと、など）	- 話題提供：「地球に優しい生き方を考える場としての『創造都市』の価値」【佐藤氏】 - パネルディスカッション：①様々な活動の実践を通じた自らの「まち」に対する見方や想いの変化、②「まちづくり」と「ユース」の関連性、③自らの「まち」の将来像と「まち」の持続可能性に必要な要素、④「地球にやさしい生き方」とその実践の方法
参加者の感想	- 高校生が自分の言葉で話しているのがよかった - ESDについて、活性化に向けたアイデアを得ることができた	- Mentimeterを使って一緒に参加でき、より自分事として考えることができた - 藤田先生の大人の視点と若者の視点という双方の視点で良いディスカッションが行われたと感じた	- 創造都市ネットワークについて、地元のユースが取り組んでいる姿から意義を感じることができた - 臼杵市の取組についてのお話や、創造都市についてのお話がとても面白かった
写真			

*オンライン上で使用できる対話型ツールのこと（<https://www.mentimeter.com/>）

ユースフォーラムの開催結果 > 6 7

基調講演では高島峻輔芦屋市長に応援メッセージをいただき、その後ユース世代の参加者間で「未来への宣言」策定に向けたワークショップを実施

	6 基調講演	7 ワorkshop・グループディスカッション
テーマ	『未来への宣言』策定に向けた応援メッセージ	『未来への宣言』策定に向けたワークショップ・グループディスカッション
登壇者	高島 峻輔（芦屋市長）	進行：佐藤 世瑛・笠井 春菜（次世代ユネスコ国内委員会委員）
講演/議論概要	- 市長の自己紹介、芦屋市とユネスコの関わり、ユネスコにおけるユースが果たす役割の重要性 - ユース世代の声を持つ可能性を信じ、それを行政に反映することの重要性とその方法（ユース世代との意見交換、世代間の対話、地元根付いたユース世代の活動等） - ユース世代の挑戦を続けていくこと、それが社会を変えていくことにつながるということ	次世代ユネスコ国内委員会委員がユースフォーラム開催前にユネスコ活動を行うユース（玉川大学、奈良教育大学、臼杵高校、長岡技術科学大学など）と複数回議論した結果を元に作成した「ユネスコ活動を通じた気候変動への取組に関する『未来への宣言』」をベースとした議論 詳細は次頁参照 【ワークショップ・グループディスカッションの流れ】 - 自己紹介 - 参加した分科会の内容の共有 - 事前に配布したワークシートを元に「あなた個人でできるアクション」「あなたが誰かと協力してできるアクション」を同グループの参加者と共有し、ポストイットに記入 - 模造紙にポストイットを貼り、参加者全体（オブザーバー含め）に共有
参加者の感想	市長がユース世代の可能性を信じており、ユース世代との対話を重要視しているという発言にとっても勇気づけられた	- 団体や組織に所属していなくても個人個人ができるアクションがあるということが分かってよかった - ユース世代が楽しめるイベントであり、ユネスコに関する基礎知識がない状態でも面白いイベントだった - ユース世代よりも大人世代が多かったこと、議論時間が短かったことは今後の課題と思う
写真		 

『未来への宣言』

今、ユースの私たちがユネスコと共にすべきこと～気候変動をテーマに～

自分たちの未来のために、私たちは次のように活動していくことをここに宣言します。

教育：『持続可能な社会の創り手として、ユース（若者）から気候変動に対するアクションを起こすために、ユース同士だけでなく全世代での対話の機会を設けていきます。』

科学：『産学両方の研究者及び、世界自然遺産・ユネスコ世界ジオパーク・ユネスコエコパークの関係者と協働し、日本のハイテク技術を生かした環境保全、またその必要性に関する対話を進めていきます。』

文化：『ユネスコ創造都市ネットワーク関係者と共に、日本各地の独自性と創造性を活かし、より地球にやさしい文化の保全、創造と定着、発信に尽力します。』

（参考）『未来への宣言』策定に向け、「今、10代、20代の私たちが望む30年後の日本」というお題で意見を出し合った結果の一部*

日本産の美味しい緑茶が飲める日本	いつまでも春に満開の桜の下でお花見できる日本	高校生たちが夏の甲子園で体調崩さずに決勝戦ができる日本	すいすいどこでも電気バイクで旅行できる	自然災害への対策と防災に関する知識とノウハウを他国への支援とメンタリング	今と変わらず北海道の川に鮭がたくさん遡上している	地元江戸川区が存在する
人間と自然(野生生物とか)が共生できる社会	紅葉が綺麗な山でハイキングできる	おじいちゃん、おばあちゃんたちの一番の亡くなる原因が熱中症でない日本	台風などの天災の被害（人間にも自然・文化遺産にも）が今よりも少ない社会	防災・減災、再エネ先進国として、外交力を発揮し、国際協調を推進する日本	各地で野鳥がみられる日本	伝染病や感染症の心配が今以上になく、いい社会
おいしいチョコレートが食べられる日本	さんまとかまぐろとか、将来もおいしい魚が食べられる！	空気が綺麗な日本	環境難民の人たちと共存できる世界	気候変動について知らなくても安心して暮らせる	各地域に多様な魅力が溢れ、世界に発信され続ける日本	一次産業が盛り上がっている

*次世代ユネスコ国内委員会、玉川大学、奈良教育大学、白杵高校、長岡技術科学大学など、各地の高校・大学のユネスコ部・ユネスコクラブのユースで、私たちが望む日本の未来について考えました。

『未来への宣言』 策定に向けたワークショップ 意見マップ

ユースフォーラムで開催した『未来への宣言』 策定に向けたワークショップでは、教育・科学・文化の各分科会によるパネルディスカッションに参加した後、ユース参加者同士で、各自考えたこと、今後の自分の活動について、意見交換を行った。その際の意見は下記のとおり。

-凡例-

：各分科会における議論のサマリー

：ワークショップで出た意見をグループ分けしたもの

#活動

学び・気づきを共有する環境づくり

もっと子供たちの想像力や行動力を活かせる場をつくる

「サードプレイス」でいきいき活躍できる仕組みをつくる

ユースによる探究学習・出前授業を行う

「学校内」の他に、「学校外」とのつながりをつくる

アクションを起こしやすい環境を作る努力をする

教育

- ・気候変動などのグローバル 이슈 に向き合っていくには、**世代間での対立ではなく、協働が必要**
- ・**気候変動との多様な関わり方があることを知ってもらうことが重要**
- ・問題意識を共有できる**コミュニティを獲得**することが大切
- ・学びをアウトプットし**周りをアクターとして巻き込んでいくことが重要**

友人と社会課題を話題にしてみる

若者ならではのニーズを聞き、対話する場をつくる

自らが、気候変動に対するイベントや団体に参加する

#対話

いろんな人と関わり、取組に巻き込んでみる

外部の人たちを招いた学習発表会を行う

専門用語を使わず、社会課題を身近なものにする

#発信

身の回りの具体的な問題・課題を知る機会をつくる

立場が違う人にも、自分の考えを発信してみる

関心の窓をたくさん開け、色々なアクションの手段を持っておく

自分が学んだことをアウトプットする場をもうける

些細なことでも何かしらの手段で発信してみる

社会への意見をSNSコンテンツにして発信する

決められたことをやるよりも、ちょっと尖っている方がいい（かも）

30年後の自分を守る意識を持つ

ユースと大人の繋がりを作る

ユースを巻き込み、全世代でやる気を起こす

「世代」意識を連帯に使う

企業との意見交換の場をつくる

不安なことばかりではなく、希望を持てるような気持ちを持つ

やりたいことを社会の中でやる・できるようにする

#つながり

若い世代同士のコミュニティを広める場所を作る

世界のユースと交流し、協働する

科学

- ・自分が考えること主張したいことを社会に対してソーシャルメディア等で**発信していく地道な活動**が重要
- ・ただ発信するだけでなく、情報の受け手のニーズやトレンドを理解し、バズらせる**戦略を立てる**ことも大切
- ・一方、受け手側は多様なメディアを通じてアンテナを張ることに加え、**情報の取捨選択**をすることが重要

#意識

文化

- ・独自性×創造性＝持続可能性
- ・「まち」に息づく文化や知恵を学習し**次世代の誇りとアイデンティティを育む**
- ・次世代が自らの「まち」の誇りを語り、他の「まち」の誇りを学ぶことの出来る**機会の創造**が重要
- ・創造都市とフェアトレードタウンの連携
- ・地球に優しい生き方の根源は**他者への意識と他者との関わり**にある

イベント実施における今後の課題

イベント実施における今後の課題は、①ユース世代の参加者を増やすこと、②ユース世代と大人世代との対話機会をつくること、③出席者の多様性を豊かにすること

1. ユース世代の参加者を増やすこと

- ⑦ ワークショップ・グループディスカッションにおける参加者は、登録ベースでユース世代30名、大人世代133名であり、ユース世代の参加者が多くはなかった
- 教育現場へのアプローチだけではなく、学生への直接的なアプローチも必要

ワークショップ・グループディスカッションにおける参加者

	会場	オンライン	計
ユース世代	17	13	30
大人世代	39	94	133

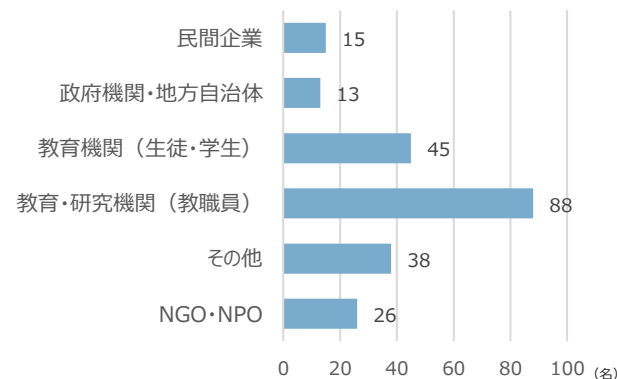
2. ユース世代と大人世代との対話機会をつくること

- 昨年度のユースフォーラムでは、「ユースが主役」と位置付け、ワークショップでは意図的に大人世代をオブザーバーとして設定していたため、ユース世代と大人世代との対話機会が希薄であった
- 「ユースフォーラム」としつつも、大人世代の積極的な参加を促し、ユース世代と大人世代との対話機会の創出により相互理解を育む仕組みが必要

3. ユース世代・大人世代含めて出席者の多様性を豊かにすること

- ユースフォーラムの参加者は、教育・研究機関の教職員が圧倒的に多く、次いで生徒・学生という実態
- ユース世代によるユネスコ活動の活性化という目的を達成するにはより多様な属性の人々（政府機関、民間企業、NGO・NPO等）との関係構築も必要

ユースフォーラム全体の参加者属性



Appendixではユースフォーラムに参加した次世代ユネスコ国内委員会委員の感想を掲載

1. 提言の振り返りと本日の御報告内容
2. ユースフォーラムの開催結果と「未来への宣言」について
3. 今後の課題

Appendix

1. ユースフォーラム開催を終えての次世代ユネスコ国内委員会委員の感想

ユースフォーラムに参加した13名の次世代ユネスコ国内委員会委員の感想を掲載



川端委員

「これから」のユネスコ活動について共創できた1日だったと思います。ユースの強みを活かした活動をこれからも行いたいです。



西野委員

今回多様な人と語り、同じ時代を生きる私たちが世代を超えて“次世代”について語り合うことができる場の重要性を改めて感じました。



長澤委員

多様なバックグラウンドを持つ参加者の皆さんと繋がり、「未来」を想像・創造するための対話を行ったことを嬉しく思います。



小林委員

ユースが主体となりユネスコの活動の輪を広げる一步を踏み出すことができたと思います。私たち委員同士の絆も深まり、今後の活動に胸を弾ませる日となりました。



小路委員

何より、ユースの皆さんやユースをお手伝いしたいと思ってくださる皆さんにたくさんお会いできてうれしかったです。



東委員

フォーラムを通じて様々な教育関係の方や他のユースと深い議論が交わしました。今回得たつながりをもっと大きなユースのパワーにしていきたいです。



Alex委員

未来のために何かしたいと思っている他の若者たちと一緒に仕事ができるのはよかった。さらにインパクトを与えるためには、もっと若い世代に焦点を当て、実践的で、相互に対話する仕組みを取り入れる必要があると思いました。今後は文部科学省のネットワーク等を使って、より多くの人々にリーチしていきたいです。



長谷川委員

「未来への宣言」という形で参加者の考えや思いを形に残すことが出来てよかったです。ただ議論や参加者間のつながりを深める時間が十分になかったので今後フォローしていきたいです。



沖田委員

多種多様な登壇者を招いたパネルディスカッションを通じて、ユース世代が果たすべき役割や期待されていることが明確になってワクワクしました。



茶山委員

全体的に少し漠然としていたため、長期的に活動を行っていくのならば、もう少しクリアな方向性が必要なのかなと思いました。ユースのためのユースによるイベントと位置付けるのならば、集客など課題が多いと感じました。



佐藤委員

ユースフォーラムはエネルギーで、ワクワクするひと時でした。みなさんと共有した未来への想いやアイデアを次につなげていきたいです。



笠井委員

準備は大変でしたが、同じユースの方々と一緒にイベントを企画できてとても楽しかったです！もう少しディスカッションに時間を割り当てたかった等、反省点も多いですが、来年度に向けてまたみんなで頑張っていきたいです。



川上委員

様々な背景を持った次世代委員だからこそ今回のイベントができたのだと思います。今後はより本活動を広く広報していきます。



ユースフォーラムに参加した次世代ユネスコ国内委員会委員

END